

## 【日本RPF工業会】

業界団体

## 会員数10社増加、国際連携も進展

一般社団法人日本RPF工業会(三輪陽通会長(三光㈱取締役会長))の第13回定時社員総会が、6月19日、明治記念館(東京都港区)で開催された。正会員・賛助会員168名が出席(うち委任状による出席は36名)し、全ての議案を可決・承認した。総会後には、お笑い芸人のマシンガンズ 滝沢秀一氏が「マシンガンズ滝沢と考えるゴミ問題～清掃員から見た景色～」と題して講演を行った。来賓として、総会には衆議院議員の赤澤亮正氏、懇親会には参議院議員の中田宏氏と朝日健太郎氏、衆議院議員の小林史明氏と稲田朋美氏が出席し祝辞を述べ、活発な交流と意見交換が行われた。

開会にあたり、三輪会長は「環境への意識の高まりや脱炭素の社会的流れの中で、需要家の RPF に対する考え方は石炭の安い代替品ではなく、二酸化炭素排出量の削減に寄与する燃料としての認識に変わってきている。さらに、製紙業界だけでなく石油化学業界での需要など、エネルギー大量消費業界へと広がりを見せている。一方で、大型の新規事業も見込まれており、業界全体での対応力が問われている。このような中、当工業会では台湾のバイオマス協会との MOU (基本合意書) 締結をはじめとする国際連携の強化や、労働力確保のための外国人技能実習制度の充実と育成就労制度、特定技能制度への以降手続きなどを積極的に展開してきた。今後も資源循環とエネルギー供給の担い手として、社会的責任を果たしていく」と話した。

同工業会は正会員 85 社、賛助会員 59 社の計 144 社で構成される。2024 年は正会員 3 社、賛助会員 7 社の計 10 社が増加した。新たな正会員は関西製紙原料(株)、(株)杉本商事、(株)大剛。新たな賛助会員は(株)県南チップ、三友プラントサービス(株)、日本エヌ・ユー・エス(株)、(有)板越商事、(株)日本汽罐、双葉運輸(株)、レジル(株)だ。



▲祝辞を述べる参議院議員 中田宏氏

2025 年は、GX (グリーントランスフォーメーション) ※1 の実現に向けた排出量可視化の仕組みづくりや、ISO/TC300 ※2 への対応、プラ新法、高度化法を踏まえた行政・自治体への働きかけなど幅広い活動を継続展開する計画だ。RPF の地位向上と社会的認知度の向上に向け、さまざまな課題解決に向け積極的に取り組んでいく。

総会後の講演では、お笑い芸人とごみ清掃員の二足のわらじで活動し、環境省アンバサダー サステナビリティ広報大使でもある滝沢秀一氏が「マシンガンズ滝沢と考えるゴミ問題～清掃員から見た景色～」をテーマに、自身のごみ清掃員としての活動で経験したごみ処理の現状や課題を紹介。一般消費者への啓蒙・啓発運動のポイントも解説した。

## 資源循環が経済安全保障と国際競争力に

懇親会では、参議院議員で環境副大臣の中田宏氏が次のように述べた。「脱炭素社会の実現のためには、使用済みのものを効果的に再資源化していくことが重要であり、その循環連携を構築することは経済の基本である。一廃、産廃のどちらにおいても正しい分別処理やルール遵守がされてきた我が国にとっ



▲祝辞を述べる衆議院議員 小林史明氏



▲一般社団法人日本RPF工業会の三輪会長

て、これは大きな勝ち筋。ここで国際競争力をつけて経済を発展させていくとともに、環境省や経産省で連携して循環経済を構築していきたい」。衆議院議員で同じく環境副大臣の小林史明氏も「日本は資源の乏しい国だが、だからこそリサイクルの力を活かし、世界から循環資源を集め、国内で加工・利用し回していくことが経済安全保障の重要な戦略であり、日本の勝ち筋だと考える。こうした資源循環産業を稼げる産業へ成長させ、喫緊の課題である人手不足の解消にも取り組んでいきたい」と語った。

また、乾杯の音頭をとった日本プラスチック工業連盟の清水浩専務理事は「経産省主催のプラスチックのリサイクルに関する会議において、日本ではヨーロッパのような非現実的な数値目標を立てるということはせず、企業の自主性に任せ、特にプラスチックリサイクルにおいては企業がそれぞれ計画を立てて取り組む方針が示された。あくまでも数値目標は企業の自主性に委ねるという形になっている。日本は、ヨーロッパのアプローチを全て模倣する必要はないが、見習うべき部分もある。これからは日本も『環境ビジネスを生み出すのが上手な国』になるべきではないか」と話した。



▲講演するマシンガンズの滝沢秀一氏